

港湾振興便り



2015. 8

第99号

*:**

目 次

*:**

- 1 ポートエッセイ ーハバロフスクを久しぶりに訪問 現地では新型特区に膨らむ期待ー
～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長） 篠田 昭～

2 トピック

- くらしをささえる港の役割を知ろう！「港の大研究」
～石狩湾新港と函館港でみなとの出前講座を実施しました～
(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)
- 2015発見！酒田みなとの探検隊を開催しました (山形県県土整備部港湾事務所)
- 竹下復興大臣が八戸港視察 (東北地方整備局 八戸港湾・空港整備事務所)
- 小名浜港見学会を開催しました (東北地方整備局 小名浜港湾事務所)
- JICA研修「港湾開発・計画コース」を実施しました
(東北地方整備局 小名浜港湾事務所)
- 「歴史と風景から『みなとヨコスカ』の魅力を探る講演会」を開催しました。
(関東地方整備局 東京湾口航路事務所)
- 「とよはしみなとフェスティバル2015」を開催しました！
(豊橋市役所産業部みなと振興課)
- 第31回神戸港ポート天国に参加しました！ (近畿地方整備局 神戸港湾事務所)
- 第4回深日港活性化イベント「深日港フェスティバル」の開催について
(近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備事務所)
- 港へおいでよ！海の日ポートフェスタ2015 (博多港振興協会)
- 那覇港に大型クルーズ船が初の3隻同時寄港！
(那覇港管理組合 企画室)

3 お知らせ

*:**

1 ポートエッセイ ―ハバロフスクを久しぶりに訪問 現地では新型特区に膨らむ期待―
～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長） 篠田 昭～

*::~

先月下旬にロシア極東のハバロフスクを4年ぶりに訪問した。ロシア極東ではハバロフスクをはじめ10前後の地域が新しいタイプの経済特区にロシア政府から指定された。今度の新型特区はプーチン大統領の肝入りで極東発展のためにつくられた制度で、ロシア政府高官も「失敗は許されない」と語っているものだ。ハバロフスクの近況と視察した新型特区の現状をお伝えする。

新潟市とハバロフスクの縁は、新潟が大地震に見舞われた1964年に遡る。大被害を受けた新潟にハバロフスクから復旧の支援にシベリアの木材が贈られ、これをきっかけに1965年、両市は姉妹都市協定に調印した。当時はもちろんソ連の時代で、日本海は東西冷戦の最前線。「凍り付いた海・日本海」と言われていた時代に対岸交流に踏み出した先輩たちに敬意を表したい。

今年は姉妹提携50周年の節目に当たり、私をはじめ市代表团や文化団、スポーツ団がハバロフスクを訪れた。新たな交流に向けて覚書にも調印したが、ハバロフスク側からは「これからは経済交流に力を入れよう」と強く要請された。ロシア極東シベリアは、ロシアになってから軍の縮小もあって人口が100万人ほど減り、いまは600万人程度となっている。一方で隣の中国からの農用地活用の圧力は大きく、ロシアにとって極東の人口増加・発展は大きな課題になっている。プーチン大統領も自ら頻繁に極東を訪れ、2012年のAPEC首脳会合をウラジオストクで開催するなど極東支援を本格化させている。

極東活性化の切り札と位置付けられているのが新型経済特区だ。これまでロシアの特区はことごとく失敗しているが「今回は必ず成果を出す」とハバのソコロフ市長は意気込む。

ハバロフスクに設置された新型特区の一つ「アバンギャルド工業団地」には日本企業の日揮が進出を決め、植物工場の建設に取り掛かっていた。まず、一期計画として2・5ヘクタールにトマトときゅうりを栽培。2期目も2・5ヘクタール、最終的には10ヘクタールとする計画だ。

日揮の現地責任者は「ここは地震がないのでハウスを高くつくれるし、熱源に安いガスを使えるのがメリット。ハバ市民の新鮮野菜へのニーズは高いので十分にやっていけると思う」と期待を語る。「これまでと比べると特区のおかげで様々な規制はかなり緩和された。来春には極東のスーパーなどに日揮のトマト、きゅうりを並べられる」

やはり安価なガスが調達されるのはエネルギー関連企業にとって大きな魅力だ。JFEエンジニアリングも沿海地方で植物工場を計画しており、植物工場から次のガス活用プランが展開される可能性もあるように思えた。

在ハバロフスクの山本総領事とも意見交換させてもらった。「いまなら極東は投資先としてお勧めできる。特に大きな投資でなくとも、ラーメン店や日本料理店なら成功する可能性は極めて高い。韓国や中国などはすごく積極的だが、日本は過去のイメージがあるせいか、非常に案件が少ない」と総領事は言う。

今年はプーチン大統領の訪日が実現する可能性が高い。ウクライナ問題への日本側対処が変更されると一気に日ロ交流が動き出すことも考えられる。それに備えておくことは必要だろう。今月下旬には日ロ沿岸市長会議がウラジオストクで開催される。ウラジオは「自由港」に指定された。来月号ではウラジオ自由港の現状と可能性について報告したい。

:

2 トピック

:

●くらしをささえる港の役割を知ろう！「港の大研究」

～石狩湾新港と函館港でみなとの出前講座を実施しました～

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

石狩湾新港（7／10）と函館港（7／23）で、地元小学生が、「港の大研究」と称した企画の一環で港湾業務艇に乗り、施設や船などを見学しました。

乗船に先立ち、当局開発建設部職員が教材を使用し、船や貨物の種類などをはじめ、暮らしを支えている港の役割を説明。

石狩湾新港では札幌市立上野幌小学校の5年生27名がコンテナ船やLNG基地、建設中の火力発電所などの様子を、函館港では函館石崎小学校の全校児童19名が多くの船が接岸している岸壁や函館どつくの造船作業の様子、その日入港していた豪華客船「ダイヤモンド・プリンセス」などを洋上から見学しました。

見学を終えた児童は「こんなに楽しかったことはない！」（石狩湾新港）、「自分の目でタンカーなどを確認できて勉強になった。たくさん発見がありました。」（函館港）と話し、貴重な体験となったようでした。



港の役割を学ぶ上野幌小学校の児童



港を見学する函館石崎小学校の児童

● 2015 発見！酒田みなとの探検隊を開催しました

(山形県県土整備部港湾事務所)

山形県内の小学生児童とその保護者を対象にした「発見！酒田みなとの探検隊」が7月11日、酒田港地区で開催され、参加者は、みなとの学習や山形県酒田海洋センターの見学、カヤック体験、定期旅客船「とびしま」による港内見学などを通じ、地域の港と海への理解を深めました。このうち定期旅客船に乗る場面には一般の方40名も参加し、合わせて100名弱の方が参加する賑やかな行事となりました。

みなとの学習では、河口や自然の入り江を利用するなどして港が形成されることや、防波堤の役割などを学びました。海洋センターの見学では、酒田港の歴史、船舶、水産、航海、税関業務などに関わる模型やパネルを見ながら、身近な港と海の大切さを改めて感じてくれたようです。

酒田市大浜海岸では、海岸のごみ拾い競争の後、浜遊びやカヤック体験をしました。海で遊ぶのが初めての参加者もいたようで、浜で貝を探したり、海で泳いだり、各々の楽しみ方で海を満喫していました。

また、特に人気のあった定期旅客船「とびしま」の乗船体験において、参加者は、詳しく分かりやすい船内放送を聴きながら、ひとつひとつを自分の目で確かめていました。天候も爽やかな潮風と美しい夕日という絶好の条件となり、波で船が上下する度に大きな歓声が上がるなど、感激の見学クルーズとなりました。（主催：山形県、山形県港湾協会、NPO法人酒田港女みなと会議、共催：国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所）



みなとの学習



海洋センター見学



カヤック体験



定期旅客船「とびしま」での港内クルーズ

●竹下復興大臣が八戸港視察

(東北地方整備局 八戸港湾・空港整備事務所)



(船上から八戸港をご視察)

平成27年7月26日、竹下復興大臣が東日本大震災の復旧状況視察のため、就任後初めて青森県を訪れました。竹下復興大臣は青森県佐々木副知事、八戸市小林市長と共に館鼻岸壁で黙とうをした後、ポートアイランドから港湾業務艇「ほくと」へ乗船しました。約50分間海上から防波堤などの復旧状況を確認しながら、八戸港の概要や津波被害、復興状況について当事務所千葉所長から説明を受けました。

●小名浜港見学会を開催しました

(東北地方整備局 小名浜港湾事務所)

平成27年7月26日(日)、小名浜港アクアマリンパーク内でのイベント「おなはま海遊祭」にあわせて、小名浜港見学会を開催しました。

普段は立入制限区域となっている港内の一部を開放。3号ふ頭と新たな石炭輸入拠点として整備中の人工島・東港地区国際物流ターミナルに架かる、まだ繋がっていない臨港道路橋梁を歩きながら、港内の様子をご覧いただきました。

橋上では、職員が小名浜港の特徴と役割、現在進めている東港地区整備事業や橋の構造などについて詳しく説明。訪れた約300名の皆さんからは、「普段は入れない港内や、整備中の橋を間近に見ることができ、小名浜港に親近感を持った」「いつも気になって眺めていた橋が、何のために、どのようにして造られているのか知ることができた」等の感想を話されていました。また、「地域の新しいランドマークとなるよう期待している。橋が繋がったら、市民や観光客も渡れるよう工夫して欲しい」とのご意見もいただきました。

なお、橋の上には小学生以下を対象とする「らくがきゾーン」を設置しました。たくさん

の子どもたちが、橋桁にチョークで思い思いの絵を描き、夏休みの思い出を作っていたようです。



約300名の参加者が訪れた小名浜港見学会



橋梁の構造について、職員からの説明に聞き入る参加者



「未完成の橋を歩けるのは貴重な機会」と参加者からも好評



真剣に“らくがき”する子どもたち

● JICA研修「港湾開発・計画コース」を実施しました

(東北地方整備局 小名浜港湾事務所)

7月30日(木)から8月3日(月)までの5日間、独立行政法人国際協力機構(JICA)主催による集団研修「港湾開発・計画コース」で来日中の16か国・19名の研修員が、小名浜港及びその周辺において研修を行いました。

この研修は、政府の海外技術協力の一環として昭和38年から実施されており、当事務所では昭和49年以降、62か国から780名の研修員を受け入れてきました。

研修では、港湾計画や施工管理に関する講義、小名浜港内及び周辺企業の視察などを行いました。研修員の皆さんは、どのカリキュラムにおいても、自国の事例を踏まえた質問や講師と熱心に議論する場面が見られました。

また滞在中には、イベントへの参加や歓迎レセプションなど、日本文化と触れあい地域と交流する機会も用意されました。7月31日(金)に開催された「いわき踊り小名浜大会」には、事務所職員とともに踊り手として参加。すれ違う踊り手の皆さんや沿道を埋めた観客との交流を楽しんでいる様子でした。8月1日(土)の「いわき花火大会」では、小名浜港を彩る1万発の花火に大きな歓声を上げながら、カメラを向けて写真や動画を撮影。「港湾が物流インフラとしてだけでなく、にぎわいの創出や交流の空間として利用されているこ

とがとても印象的だ」と感想を話されていました。

最終日に行われた閉講式では、心のこもった寄せ書きと「小名浜で出会った友人たちを決して忘れないでしょう」との言葉をいただきました。

小名浜ですごした5日間が、研修員の皆さんにとってよき思い出となり、また、この研修で身につけたことを活かして、それぞれの国で活躍されることを願わずにはられません。



講義中の様子



講義の合間には講師へ熱心に質問



法被姿でいわき踊りに参加



心のこもった寄せ書きをいただきました

●「歴史と風景から『みなとヨコスカ』の魅力を探る講演会」を開催しました。

(関東地方整備局 東京湾口航路事務所)

横須賀港開港150周年を迎え、「港」に対する市民の関心が高まりつつあることから地域貢献の取り組みの一環として、国土技術政策総合研究所（国総研）及び土木学会土木史研究委員会と共催し、横須賀市の後援を受け、7月11日（土）ヨコスカベイサイドポケットにおいて「歴史と風景から『みなとヨコスカ』の魅力を探る講演会—みなととその風景からみた横須賀の魅力—」と題して講演会を開催しました。

横須賀では市内至る所に「横須賀港開港150周年」「横須賀製鉄所創設150周年」のポスターや横断幕など掲示され、多数の記念行事が予定され、地域として非常に盛り上がりつつあります。当日は、盛り上がりつつある中での開催となり、梅雨の晴れ間となり天候にも恵まれ、213名の一般参加者にご参加いただき盛大に開催されました。

講演会は、春日井国総研副所長からの開会挨拶の後、近畿大学理工学部 岡田昌彰教授が

ら『横須賀の魅力 ―みなとが育む風景』と題し、軍港都市として発展した横須賀独特の景観に関する歴史について地区毎の事例による紹介や横須賀の成り立ちから可能性等について講演いただきました。

プログラム2番目として国総研 吉田秀樹管理調整部長から『海と船が見える坂道 ―横須賀の地形と歴史が生み出した風景―』と題し、横須賀に多数存在する「海と船が見える坂道」の魅力について地区毎に坂道が発達した経緯等も含め講演いただきました。

休憩を挟んでプログラム3番目として当局港湾空港部 野口孝俊港湾物流企画室長（前当所副所長）から『海の関所横須賀港―東京湾要塞から浦賀水道航路』と題し、当所の行っている東京湾口航路整備事業の中で撤去した第三海堡は明治期後半に建設された東京湾中央部に位置する軍事要塞跡の一つであり、東京湾要塞は横須賀市にも複数存在し、その建設材料となっている明治期の煉瓦と調達や航路整備事業の必要性について講演いただきました。

プログラム4番目として横須賀建築探偵団 富澤喜美枝代表から『海軍が残した遺産―横須賀軍港水道半原系統』と題し、横須賀水道半原系統の水道施設は大正10年に完成し、建設から約100年使用され、平成27年3月を持って廃止となりましたが、現存する遺構は土木・産業・軍事遺産であるとともに、市民生活の基盤を担っていた水道施設について多くの写真を交え講演いただき、長内東京湾口航路事務所長からの閉会挨拶をもって講演会の幕は閉じました。



■受付の様子



■会場内の様子

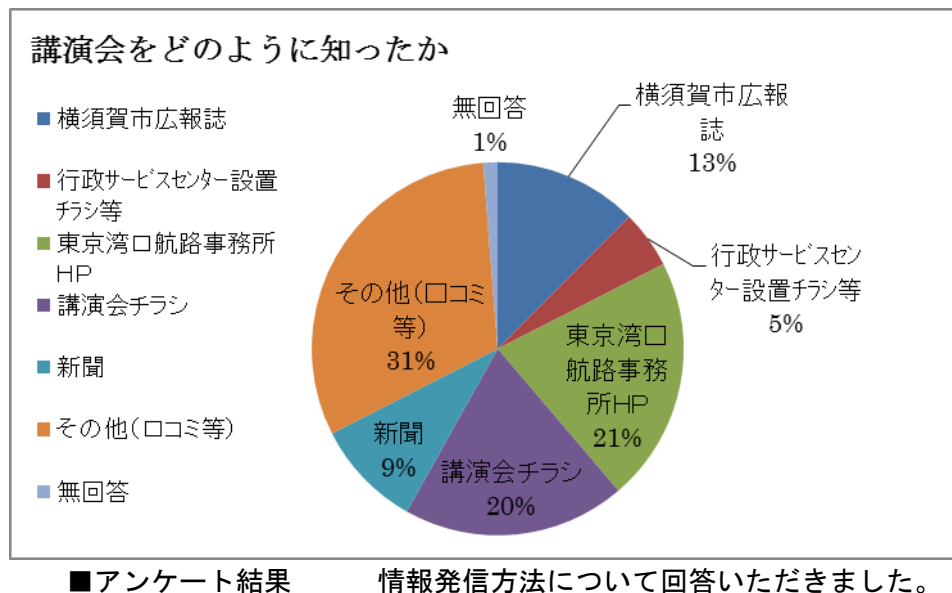


■岡田近畿大学教授の講演



■富澤横須賀建築探偵団代表の講演

当日は今後の広報活動の参考とするため、アンケートを実施し160通の回答をいただき、今後の広報活動の参考にしていきたいと思います。



●「とよはしみなとフェスティバル2015」を開催しました！

(豊橋市役所産業部みなと振興課)

7月20日の海の日に、愛知県豊橋市神野ふ頭町の「カモメリア」および周辺会場にて「とよはしみなとフェスティバル2015」を開催しました。三河港クルーズ、ポート・バスツアー、船舶の一般公開等を行い、約35,000人が三河港を訪れ、大盛況となりました。

とよはしみなとフェスティバル2015HP：

<http://www.toyohashi-cci.or.jp/event/minatofes/>



【マリンステージ】



【海洋環境整備船 白龍の一般公開】

●第31回 神戸港ボート天国に参加しました！

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

平成27年7月20日（月・海の日）、「神戸港ボート天国」が神戸港メリケンパーク周辺で開催されました。本イベントはプレジャーボート等の遊走が困難な港湾内で、海に親しみ気軽に海洋レジャーが楽しめる場所を市民に提供することにより、海洋性スポーツの振興と海事思想の普及・高揚を図る目的より、平成2年7月に開催して以来、今回で31回目を数えました（平成7年は震災により中止、平成13年は春・夏・秋の3回実施、平成16年は5月・7月の2回実施）。

当事務所は海洋環境整備船「Dr. 海洋（ドクターかいよう）」の一般公開及びPRテントで広報パネルを展示し、港湾事業及び海洋環境整備事業についての重要性やストック効果について広報活動を行いました。

当日は台風11号が通過後の猛暑日でしたが、人の出足は好調で、小さなお子様から高齢の方まで幅広い世代の方々合わせて約1200名が当所ブースにお越しいただき、一般公開開始から終了まで常に大盛況でした。



大勢の人々で賑わう船内



出展船を回るスタンプラリーも大人気でした

●第4回深日港活性化イベント「深日港フェスティバル」の開催について

(近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備事務所)

6月28日に大阪府泉南郡岬町の深日（ふけ）港旧フェリー乗り場において第4回深日港活性化イベント「深日港フェスティバル」が開催され、家族連れなど多くの来場者で賑わいました。「深日港フェスティバル」は、淡路島の洲本港との定期航路復活や地元の活性化を目的に、岬町などで行く実行委員会の主催で毎年6月下旬に開催されており、今年で4回目となります。

今年は岬町町制60周年記念事業としても位置づけられ、うず潮観光船日本丸による淡路島観光ツアーや大阪湾ミニクルーズ、泉州南広域消防本部による消防フェア、大阪府警察音楽隊によるドリル演奏、地元物産品等の展示・販売などが行われました。

また、後援した近畿地方整備局からは大阪港湾・空港整備事務所と和歌山港湾事務所が出展いたしました。大阪港湾・空港整備事務所は事務所PRブースでパネル展示やパンフレット配布を行い、和歌山港湾事務所は海洋環境整備船「海和歌丸（うみわかまる）」の一般公

開を行い、いずれも多くの方にお越しいただきました。



田代堯（たしろたかし）岬町長挨拶



日本丸入港の様子



大阪港湾・空港整備事務所PRブース



海和歌丸乗船見学会

●港へおいでよ！海の日ポートフェスタ2015

(博多港振興協会)

7月20日（月・祝）、博多港中央ふ頭イベントバースにおいて「港へおいでよ！海の日ポートフェスタ2015」を開催しました。合わせて、巡視船「いとしま」の一般公開も行いました。博多港を身近に感じるイベントに約7,000名の方々が来場されました。



●那覇港に大型クルーズ船が初の3隻同時寄港！

(那覇港管理組合 企画室)

平成27年7月28日に那覇港へ大型クルーズ船が初めて3隻同時に寄港しました。若狭のクルーズターミナルにボイジャー・オブ・ザ・シーズ、新港ふ頭7号岸壁にスーパースター・アクエリアス、新港ふ頭公共国際コンテナターミナルにレジェンド・オブ・ザ・シーズが相次いで寄港し、3隻合わせて約7,600名の乗客が沖縄での観光や買い物に訪れました。



:

3 お知らせ

*:**

◇「第8回大阪湾生き物一斉調査」結果発表会

実施内容 : 今年の春に実施した「第8回大阪湾生き物一斉調査」の調査結果発表会を開催。調査に参加した大阪湾沿岸で活動するNPO等団体等からの調査報告（ポスターセッション、口頭発表）や大阪湾に纏わる話題提供などを予定

開催日時 : 平成27年10月3日（土）

開催場所 : 大阪市立自然史博物館（大阪市東住吉区長居公園1-23）

主催者名 : 大阪湾環境再生連絡会 大阪湾生き物一斉調査プログラム実行委員会（事務局）
近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所調査課）

お問い合わせ : 近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所調査課 TEL 078-331-0058

Webページ : <http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/life/>
（大阪湾生き物一斉調査情報公開サイトホームページ）



今年度の調査（浜甲子園）の様子（兵庫県西宮市）



昨年度の発表会の様子（大阪市立自然史博物館講堂）

◇ 第6回 みなとオアシスSea級グルメ全国大会 in 宮古

開催期間 : 平成27年9月19日（土）～20日（日）

開催場所 : みなとオアシスみやこ シートピアなあと

概要 : Sea級グルメ全国大会は、みなとオアシス全国大会の一環として開催される、みなとのグルメイベントです。

全国のみなとオアシスの地元で水揚げされた海産物や名産品をを使いつくられたグルメが集合します。

<http://www.seagnavi.com/>

◇ 大分港開港50周年記念事業

〈大在会場〉

開催期間 : 平成27年10月31日（土）～11月1日（日）

開催場所 : 大在公共埠頭

[illegible]